

お茶の時間

「ソーグテンケン」

柴田 幹雄 陸自75

若いころ空挺団で勤務した。空挺降下は何度やっても緊張するが、その爽快感もたまらない。降下2分前になると機内の降下長から「降下用意、立て！」と号令がかかり、各隊員は降下準備に入るが、全ての動作は号令に従い一斉に行う。輸送機の空挺扉はすでに開放されていてすさまじいエンジン音が入ってくる。号令は大きなジェスチャーを伴って掛けられる。装具点検はジェスチャーに合わせて「ソーグテンケン」となる。隊員は点検箇所の番号を叫びながら順番通り自動索環、鉄棒、あご紐、予備傘…と手で触り装着状態も含め点検していく。

かつての空挺隊員も人並みに年を取り、外出時ちよいちよい何かを忘れる。最近家を出るときは行つてらっしゃいのキスではなく、家内に「ソーグテンケン」と確認される。そこで、「鍵、マスク、財布、名刺入れ、スマホ、手帳…」とポケット、カバンなど順番通りに触って確認、「9品目全部よし！」と答えて勇躍家を出る。まあ歳を取ればこんなものか。「人生全部よし！」となるまで確認しつつ着実に生きよう。